

会議議事録

				記録者	仲村 堯之
供覧	部長	課長	課長補佐	主査・係長	G員
件名	第3回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会				
年月日	令和3年3月28日(月)				
時間	午前10時～正午				
場所	龍ヶ崎市役所 5階 全員協議会室				
出席者	最上位計画策定審議会委員 鈴木 麻里子 委員, 谷口 佳菜子 委員, 田中 治彦 委員, 中村 友則 委員, 武藤 成一 委員, 北川 滋也 委員, 池永 直子 委員, 披田 信一郎 委員, 萩原市長 事務局 松尾市長公室長, 岡野企画課長, 小室企画課長補佐, 記録者				
欠席者	深澤 泰子 委員, 郡司 悦子 委員, 櫻井 惇 委員, 渡邊 孝 委員, 石引 公子委員				
情報公開	<input type="checkbox"/> 公開	非公開(一部非公開を含む)とする理由		(龍ヶ崎市情報公開条例第 条 号該当)	
	<input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開				
発言者	内容				
	開会 市長あいさつ 会長あいさつ 議事録署名人の指名(鈴木会長, 北川委員, 池永委員)				
鈴木会長	それでは、議題に入りたいと思います。最初の議題は「龍ヶ崎のみらい創生▷高校生政策アイデアコンテストの結果等について」です。 事務局から説明お願いいたします。				
事務局	≪資料に基づき「龍ヶ崎のみらい創生▷高校生政策アイデアコンテストの結果等について」説明≫				
鈴木会長	ただいまのご説明について何かご質問等があればお願いいたします。				
披田委員	当日のプレゼンは動画で見させていただきました。14件の応募があつて、9件は事務局の一次審査で落とされたということですが、その9件の提案内容を簡単にご説明いただければ				

	と思います。
鈴木会長	ありがとうございます。それでは事務局お願いいたします。
事務局	<p>高校生政策コンテストについては14チームから応募がありまして、5チームを2次審査に通過させていただき、残り9チームについては1次審査で落とさせていただきました。</p> <p>審査方法は、資料2ページをご覧くださいと思いますが、根拠がしっかり整理されているかといったいわゆるEBPMの視点や、企画力の部分でどうか、またアイデアとしてこれまでにない斬新なものか、その他実現可能性などを審査項目として点数をつけさせていただいたところです。</p> <p>また審査につきましては、企画課だけでなく、他課の若手職員なども含めて審査を行わせていただきました。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。ただいまのご説明について披田委員いかがでしょうか。
披田委員	高校生たちが何をテーマにしていたのか、何を言おうとしていたのか、また一次審査通過者と比較して何が足りなかったのか、落とした理由ではなく、アイデアの内容を伺いたいと思います。後日の資料配布でも構いません。
鈴木会長	ありがとうございます。この点について事務局いかがでしょうか。
事務局	<p>基本的には今申し上げたとおりの視点がベースにありますが、実現可能性や根拠が整理されていないなど、現実的かどうかといった点は大きかったと思います。</p> <p>例えば、竜ヶ崎二高生の案だと幸福度に関するものが挙げられていました。時代の潮流の中でも整理されていますが、幸福を追求するという取組が国でも出始めていて、その点に視点を置いて、幸福度を上げたらいいのではないかというのがベースにありました。そこから展開されていく内容が、幸福度を上げるためにはお金が必要で、お金を儲けるためにはにぎわいづくりをしなければいけない。そのためにジャイロモノレールという交通機関を設置したらどうか、という提案がありました。</p> <p>これは導入の考え方自体はよいのですが、最後の提案の部分で現実離れしておりましたので、一次審査で落ちてしまっています。</p> <p>その他、災害対応に関する提案が2本あり、これは既に市でも取り組んでいる内容でした。そのような提案が何件か散見されるということです。</p> <p>提案をまとめてお見せすることも可能ですので、後日資料を送らせていただきます。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。ほかにご質問のある方がいらっしゃればお願いします。池永委員お願いいたします。
池永委員	<p>コンテストの様子は、エンターテイメントとしても楽しくとても興味深く拝見することができました。</p> <p>ただ一つ残念だったのが、事前に提案の内容が分かっていたので、市としてのこれまでのコミュニティバスの取組や結果、牛久沼周辺の施策の進捗状況などを、その場でフィードバックできたのではないかと思います。</p> <p>最優秀賞を取られた方は、後ほど市長とお会いになって色々意見の交換をされたようですが、せっかくの発表でしたので、高校生の方たちへのフィードバックなどを今後考えているのかお伺いしたいと思います。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。
事務局	今回のコンテストでは、アイデア提出前に市役所に来て、市担当者にヒアリングをして、そ

	<p>れをベースに案を作ったというチームもいくつかありました。</p> <p>また今回は初回ですので、まずは開催できたということが大切なのかなという部分もあるのですが、池永委員からありましたように、これをどうフィードバックしていくのかという点について、今回は次期最上位計画を策定しようとしているところですので、それに反映させていくことは出来ると思うのですが、2年3年と続けて開催した場合、最上位計画ができ上がってしまった後に提案をもらっても、それをどう反映するのかというのが課題になってくると思います。そういった点については、やり方なども含めて検討していきたいと思います。</p> <p>現段階の案ベースでは、市や高校が希望するテーマを設定して、一定の時間をいただき、出前授業やワークショップ的なことをやっけていながら、提案をまとめ、新たな事業展開につなげていく、といったことが挙げられるかと思います。</p>
池永委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>今回の政策アイデアコンテストは、手作り感が出ていて楽しいコンテストでした。</p> <p>その一方で、市で進めていることが、市民に伝わっていなかったり、分かりにくかったりする部分があるかと思います。</p> <p>市民の中にもそうした考えがありますので、せっかく新しいことをされているのであれば、市民にやっているのが、伝わらないのはすごく残念だと思います。</p> <p>高校生に対しても、提案されているアイデアの進捗状況をその場で説明して、私たちにも納得できるコンテストになると良かったのではないかと思います。</p>
鈴木会長	北川委員お願いいたします。
北川委員	<p>私もオンラインで拝見させていただきました。</p> <p>18歳問題というのが話題に上がりますが、もうすぐ大人になる高校生もいるという中で、そうした世代から声を吸い上げるというのが今回の仕掛けだと思うのですが、今後こういった若い世代の政策提言、まちの課題についての意見などをどのように吸い上げていくのかという仕組みづくりが大事だと感じました。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>事務局からよろしいですか。</p>
事務局	<p>高校は県の施設であり、所管している組織が違うので、小中学生に対してと、高校生に対してを比較すると、ハードルが高いということがありましたが、高校の方からも要請が高まっておりますので、双方にメリットが出るようなやり方を考えていきたいと思っています</p>
鈴木会長	ありがとうございます。田中委員いかがでしょうか。
田中委員	<p>若い世代の政治参加、行政参加、社会参加はすごく大事で、こういったプログラムは素晴らしいと思います。</p> <p>4月から18歳成人が実施されますが、消費者被害のこししか啓発しておらず、もっと若者を社会参加させるという意味では、世の中がきっちりサポートできていません。</p> <p>選挙権の影響は非常に大きく、3・4年前から政治参加は促されています。経済・社会参加という面では、18歳成人になると契約ができ、大学生でも起業できます。若い人の政治参加とともに経済・社会参加を促すようなことをこの機会にやっても良いのではないのでしょうか。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。この点については事務局いかがでしょうか。
事務局	<p>18歳成人のように、社会が変わっていくという状況もありますので、そういう点も踏まえて、次期最上位計画の施策を考えていく中で、若者支援という施策も設けているところござ</p>

	<p>いますので、そういった若者の起業支援とか、消費者問題の注意喚起なども含めて、具体的な方策を示していければと考えています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。 それでは、次の議題に入ります。 次の龍ヶ崎市人口ビジョン(令和3年度改訂版)(案)についてです。 事務局から説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>《資料に基づき「龍ヶ崎市人口ビジョン(令和3年度改訂版)(案)について」説明》</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。これについてご質問等ありましたらお願いいたします。 北川委員お願いいたします。</p>
北川委員	<p>先ほど 2020 年度の増加要因で外国人の流入が多かったとの説明がありましたが、外国人の過去の推移のデータは取られていますでしょうか。 国の移民政策が定まっていないので、我々の周辺に外国人の方がたくさん生活されています。外国人が増えてくることによっていろいろな影響もあると思うのですが、実態として数字を掴んでおくことが必要かと思えます。 またアンケート結果を見ますと、龍ヶ崎は暮らしやすいまちだとあります。それは例えばごみ収集から始まり、インフラ整備、人々の交流であるとかそういう部分が関わっての結果かと思えますので、それらを維持するための目標人口を立てることが必要ではないでしょうか。 他市町村でそういったアプローチをしているところがあり、その自治体はこの人口は絶対維持したいという数値を定めて、そこに向かって具体的な政策が固まっていくような形になっていたかと思えます。龍ヶ崎市でもそういう考え方を持っているのでしょうか。</p>
鈴木会長	<p>この点については事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>まず外国人の数につきましては、手元に平成28年の県の統計があるのですが、徐々に増えているという状況です。令和3年度についてはコロナの影響もあってか、若干減っています。龍ヶ崎市には2,293名の外国人の方がいらっしゃいまして、国別で見ますとベトナム、中国、フィリピン、スリランカ、ブラジルといった順で、アジアの方が多いというのが現状です。 次に目標人口の考え方については、どのあたりが適正の数字なのか、非常に難しいところではありますが、国の長期ビジョンでは、2030年に合計特殊出生率を1.8まで回復、そして2040年までに置換水準である2.07まで回復させて、その後は人口9,000万人程度に安定させていくというような内容が示されておりますので、龍ヶ崎市もそれに基づいて、まず合計特殊出生率を安定させるというところを目指した上で、市の人口についても、右肩下がりから徐々に現状維持へとシフトさせていけるように変えていくという考え方で整理しています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。 北川委員お願いいたします。</p>
北川委員	<p>外国人が、例えば関東・関西・東京圏などといったように、どこから流入されたかという統計は取っているのでしょうか。</p>
鈴木会長	<p>事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>申し訳ございませんが、その点は確認してみないと分かりません。</p>
北川委員	<p>なぜこれを申し上げるかという、外国人を市民の1人として把握していて、その数に合わせて色々な政策というのを回していく、これからそういった必要性が出てくるのではないかと</p>

	<p>考えているからです。</p> <p>都市によっては、外国人が多く占めているところもあります。かなり多くなってから考えるというのではなく、その推移のデータを取っていくというのが大事ではないかと思えます。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。事務局お願いいたします。
事務局	計画の中では、外国人が増えているという状況も反映いたしまして、多文化共生というところの政策を立てていきたいと考えております。その際にはデータも必要になってきますので、整理していきたいと思えます。
鈴木会長	ありがとうございます。披田委員お願いいたします。
披田委員	<p>外国人登録法の関係で、2012年から外国人も住民基本台帳に入れるというように扱いが変わってきたと思えますが、国別で統計は取っているかと思えます。そうした中で外国人の増加による様々な問題があるため、人口分析がこの資料の中にあってもいいのではないかと思えます。</p> <p>また最終的な展望人口というのは、甘すぎて結論的には賛成できません。龍ヶ崎市の場合、合計特殊出生率は確実に下がってきていて、市でもこの状況を受けて色んなことをしてきたはずだと思います。今回の最上位計画の策定まで何もしてこなかった、関心を持たなかったというわけではなく、様々な施策を進めてきて、所管でも諸施策を打ち出してきた結果として現在の状況があるのだと思えます。</p> <p>そうした中で、国が2030年に合計特殊出生率を1.8に戻さなくてはいけないとしているため、各市町村の計画はその数字を入れていくという状況がある中、それでも龍ヶ崎は現状を踏まえて目標値を少しずつスライドさせた形にしているということですが、これは前回のときも同じような手法を取ったのかと思えますが、結局のところ結果を出せていません。</p> <p>最終的に2.1まで戻るという確信はあるのでしょうか。</p> <p>人口もますます厳しくなる中、せつかく最上位計画の見直しをしていくときに、前提の人口も将来展望も、この数字は甘すぎるのではないかと感じます。</p> <p>施策の具体的な目標といえますか、人口の減少がこの程度見込まれる中で、それに合わせて何を集中的にやるのかという展望を出していくとすれば、見込みが甘すぎるような気がします。</p> <p>また人口ビジョンを作る際には、国の数字を基にしたものしか作れないというような縛りがあるのでしょうか。また2.1という数値は今後の施策によって何とかできるという確証があるのか。その点について回答をお願いします。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。田中委員お願いいたします。
田中委員	<p>人口計画というのは財政にも直結しますので大変重要なものだと思いますが、それが夢物語になってはいけないと思えます。</p> <p>何の根拠があつて2.1に戻るかということもあるわけですし、これが1.0のまま推移するという可能性も考えられますので、この点については審議会として腹をくくるしかないと思えます。</p> <p>また、今後は農業・商業・運輸・福祉・医療全ての分野で労働力不足の進行が大きな課題になってくると思われます。</p> <p>今後、合計特殊出生率の改善が見られなかった場合、審議会としても考えていかなければいけないと思えますが、そうすると人口を埋めるのは結局移民しかないのです。タブーなので皆さん口には出しませんが、外国人労働者に定住してもらわないと、将来人口が維持できないのです。</p>

	<p>私もそれは最善であるとは思わないし、市民の人もなかなか受け入れがたいでしょうが、やはり財政に直結する問題なので現実的に考えていかないといけません。その際に問題になるのが外国人労働力の取り合いです。</p> <p>外国人が増えて困ると言っていますが、逆に来てくれと言っても来てくれなくなってしまいます。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。事務局お願いいたします。
事務局	<p>目標人口について様々なご意見をいただいたところで、考え方を整理していかなければいけないというところはもちろんあるのですが、今回のこの目標人口の設定については、披田委員が仰られたように、国がこう言っているからということだけではなく、国の長期ビジョンで国が目指しているところを自治体としても目指していかなければいけないというところがまず1点あります。</p> <p>また、これは龍ヶ崎市固有の課題になりますが、先ほどから出ているような、龍ヶ崎市の合計特殊出生率は国・県よりもかなり低く、また人口1,000人あたりの出生数を見ても低いという状況がございます。</p> <p>このまま出生数や出生率が低い水準で推移していくと、今まで以上に他の自治体よりも早いスピードで人口減少や少子化のスピードが早まっていくということが考えられますので、本市にとっても合計特殊出生率や出生数を上げていくという目標を設定することは非常に重要であると思っております。</p> <p>結婚や出産はあくまでも個人的な自由意思によるものでなかなか難しいところもありますが、出生率についても、一定の目標を定めてそこに向けた取組を推進していくという姿勢も非常に大事ではないかと思えます。市の課題に応じた目標として、今回人口ビジョンで示したように目標を定めて取組を進めていければということで我々としては考えております。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。披田委員お願いいたします。
披田委員	<p>これまで第三子支援として様々な施策を展開してこられています。そして今回新しく第二子も応援していくという施策が案として入ってきていると思いますが、施策のタイミングがずれてしまっていたのではないのでしょうか。今までやってきたことが結果として何が足りなかったのかという分析は必要だと思います。</p> <p>また社会増の問題についても、新型コロナウイルス感染症のまん延がある意味では追い風になっているはずで、東京一極集中をさせずに、カづくで引っ張ってくるという状況になってきていると思います。そうした時に、常磐線沿線よりTX沿線のほうが盛り上がっていて、明らかに負けてしまっているという状況がある中、色々やってきたことが不十分だったのか。</p> <p>そういうことで、都市間競争では敵わない部分もあると思いますので、現実をしっかりと見据えてこういう政策を今までの計画の中でやりつつ、それでもこれぐらいにしか変わらないからこういうふうを考えていくとか、これまでの振り返りをしていく中でこの数字が出てこないというよりは机の上だけの数字になってしまうように感じます。</p> <p>どこに手を打てば変わるはずだという何かがあるのだと思うのですが、それともそれは全くなく、最終的な目標数値を出すためだけにやっただけではないのでしょうか。そのあたりをもう少し詳しく伺いたいと思います。</p>
鈴木会長	事務局いかがでしょうか。
事務局	<p>これまで何も施策を打ってこなかったというわけではなく、先ほど出てきた第三子支援でありますとか、預かり環境の充実とか、そういったところで子育て環境の充実に努めてきたところでありますが、これまでやってきたことを振り返る中で、時代も変化してきておりまして、こ</p>

	<p>れまでは第三子をターゲットにした取組を進めてきましたが、現状のアンケート結果などでも、実際に希望するのは二人でも、実際には一人しか産めていないとか、そういう状況もありますので、そういった新たな視点も加えた上で子育て支援を進めていかなければいけないと思っています。</p> <p>人口ビジョンの資料でも示しておりますが、龍ケ崎市は出生率が低いというのが問題なのでその辺も重点化したいと思います。また社会増減でいえば、大学があるまちなので 10 代後半で入ってくるところもありますが、20 代になると大学卒業に合わせた就職などでぐっと減ってしまい、帰ってこないというデータもあります。今までもそこをターゲットに定住促進策などを進めてきていますが、引き続きそのあたりは力を入れてやっていく必要があると思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回は特に合計特殊出生率の話がポイントになるかと思いますが、社会増減をプラスマイナスゼロにするという目標につきましては、政策的なことを考える上でも、しっかりと考えていかなければならない部分だと思います。</p> <p>そしてもう一つ、出生の話ですが、合計特殊出生率というのは産む可能性がある女性の全体の数に対して実際に生まれている数の割合がどうなのかという出し方になります。そうすると、単身の方が多いという状況がある中で、そこで数値を算出するとどうしても龍ケ崎は合計特殊出生率が低くなるという傾向があります。</p> <p>また合計特殊出生率の母数になっている女性の中で、最も高い年齢層の方々が最も多くなっていて、その世代の単身者が比較的多いということがあります。実際に流入人口を見ていくと、子どもがいる家庭の流入というのは一定程度あるというのが数字的にも見えていますが、合計特殊出生率には繋がらないという現状があります。</p> <p>また先に少し述べましたが、合計特殊出生率を上げること自体が町の継続性を考えた上で最重要ではあると思いますが、小さい子ども連れで流入してきても子どもの人口は増えていきます。その点の考え方で、単純に合計特殊出生率を増やしていけばいいとは言い切れないものと感じています。実際に推計すると、先ほどのシミュレーション 1・シミュレーション 2 は、出生率だけをいじってもそれほど増えません。</p> <p>出生率が上がるだけではなかなか増えていかず、結局人口を増やすためには、社会増の状況を作っていくと、人口に対しては大きい影響を与えないというのはシミュレーションしていく中で見えていますので、披田委員からもありましたが、そういう意味では合計特殊出生率を 2.1 にと国が言っていますが、そこは龍ケ崎としては現実を見ると難しいと感じるところもありますので、ただ幾らかなりともそこに近づける努力はしようというところで当然政策を展開していこうということになります。そういう考えで出生率は緩やかに上げていき、最終的に 2.1 という目標に設定しました。</p> <p>その 2 点が要件としてあり、2065 年には 3 万人になってしまうという国の推計に当てはめていくと、今申し上げたような目標人口の数になっていくってことです。</p> <p>少なくとも目標としてはそういう条件下にあって、この数を目標にしてこの先 8 年の計画を作っていくということで、2030 年の目標を設定したという推計のやり方になっています。</p> <p>現実的に出生率を 2.1 に上げるというのは難しいと思います。それは龍ケ崎に限らず日本全国でなかなかそこに届かせるのは難しい、ただ、そうしてしまうと当然人口は社人研の推計のようにずっと下がっていく状態になってしまうので、それを現実的に「人口は増えません。急激な右肩下がりで。」ということを前提に政策を作っていくというのは考えづらいので、龍ケ崎市としての目標としたいという部分はある程度設定した上で、その数字的に置き換えてみたというのが今回の推計の値ということになっています。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>北川委員お願いいたします。</p>

<p>北川委員</p>	<p>出生率を変数の中の一つに入れてしまうとこの結果になり、子どもの数は変わっていないのも一つのポイントで、子育て世代が入ってきたことで、子どもの数が減っていないというこの結果なのかと思います。</p> <p>ただこれを資料として市民に出した場合、ありえない数字だという受け止め方をされるのではないかという懸念があります。</p> <p>何か他の根拠も入れた上で納得性のあるものでないと、なかなか理解は得られないのではないのでしょうか。そのあたり何か手はあるのでしょうか。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>人口ビジョンとして定めるものについては、国が定めたからこのとおりにやらなくてはいけないのかと言うとそういったことはないと考えています。</p> <p>ただ、合計特殊出生率については、変数の一つとして考慮しなさいという国からの示しがありますので、人口ビジョン上ではそれを反映させているという経緯があります。</p> <p>その一方で、ではこれを何に置き換えていくかという話になっていくと、換わるものがすぐには出てこないというのが正直なところですよ。</p>
<p>事務局</p>	<p>合計特殊出生率を2.07にしていくための具体的なやり方・考え方を分かりやすく示していくべきではないかというご意見かと思いますが、合計特殊出生率をこれをやると上がるといったような特効薬的なものもない中で、それをお示していくというのは難しいのかと考えております。</p> <p>一方で、今回のこの分析でも分かるように、龍ヶ崎のポイントとなる出生数と、若い世代の転入促進というところで施策を考えた上で、そこを目指していくということです。</p> <p>ただ国や県が出している数字は龍ヶ崎の現状から考えると現実的ではありませんので、龍ヶ崎市としての目標を丁寧に説明していければと思います。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>披田委員お願いいたします。</p>
<p>披田委員</p>	<p>この龍ヶ崎市の最上位計画は、隣の牛久市やつくば市がどうかということとはあまり関係のないように見えます。ですが、ある意味では東京一極からの引き戻しを進める場合に、龍ヶ崎が単独で何かできるということではなく、茨城県南というように、行政区域を越えた中でどういことができるかということが求められると思います。</p> <p>この間の分析で社会増減が均衡しているというのは、外国人が徐々に増えてきていることと、それから稲敷市や河内町などからの流入が要因かと思いますが。</p> <p>一方で、元々龍ヶ崎にいる方は東京圏をはじめ、外へ出ていってしまっているというのがあるかと思いますが。</p> <p>2、3年前に若手職員の方がプロジェクトを作って、外国人の状況も含めた詳細な調査分析を作ったと思います。あの分析はせっかく良くできているので、委員に見せていただくのですが、近隣市町村の状況も含め、長い目でみていくとどうなっていくのかというのが気になります。稲敷やつくば、成田など、今の生活圈とか仕事の関係ではそのぐらいの範囲の中で、動いています。その中で龍ヶ崎は何を分担するのか。以前から田園居住都市みたいなイメージではないかと思っているのですが、やはり田園環境に恵まれているという環境の中で産業があるのではないかと思います。</p> <p>それから男女別産業人口で見ると、男性は製造業が多く、女性の方に着目すると、卸売業・小売業のほか、製造業、医療、福祉といったところに多く出ています。</p> <p>過去には龍ヶ崎市も工業団地の拡張を行っていましたが、龍ヶ崎市の周辺地域も含めてどういう生活ができるのか、ある程度の流入・流出があるにしても、田園環境を活かして、近</p>

	隣市町村との地域分担ができるようなまちにしていく。そういうところまで考えたほうがいいのかと思います。
鈴木会長	事務局お願いいたします。
事務局	<p>今言われたような話はそのとおりであって、そういったところを目指していかなければいけないという点は多くあります。ただ、それを目指すための指標といいますか、成果指標を設定して評価しなければいけないという流れの中で、これが目標だという点はやはり明確にしておきたいという考えがあります。</p> <p>それは人口ビジョンで先ほどから申し上げているような、ある程度龍ヶ崎市としてこうありたいというところを数値化しているものになります。算出の仕方がどうなのかという話につきましては、繰り返しにはなりますが、国などのものをベースに作っているというのが現状です。</p> <p>そうした中でも、2030年に設定した目標を達成するために何をやっていくかというところがポイントかと思います。減少幅としては、概ね4,000人程度減ってしまうという状況が見込まれますので、10年で減少幅をその程度に抑えるにはどうしたらいいのかというのを示すための指標としても、この人口の推計を上げたいと考えています。</p>
鈴木会長	武藤委員お願いいたします。
武藤委員	計画の策定を進めていく中で、立地適正化計画との整合という課題が出てくるかと思いますが、その中で、将来人口推計に基づくコンパクトシティの形成に向けた記載があるかと思いますが、そちらの人口推計との整合についてどのように考えているか教えてください。
鈴木会長	事務局お願いいたします。
事務局	龍ヶ崎市でも平成30年に立地適正化計画を策定しておりまして、その中で将来人口も含めた都市機能誘導区域の考え方ですとか、居住誘導区域の考え方などを示しています。それはこれより前の人口推計に基づいて考えられたプランになります。今回、人口ビジョンを更新しますので、必要に応じて今回の人口ビジョンの考え方を立地適正化計画に反映させていくという流れになるかと思います。
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>出生率について一言お伝えしますと、流通経済大学ではここ数年女子学生が増えております。そういうこともあり、出産可能年齢である女性は増えていますが、それが出産可能であるということにはなりませんので、それによって母数を増やしてしまっているところがあります。そこを差し引いてお考えいただくと我々も助かります。</p> <p>大学として女子学生を増やすということについてはある意味成功していて、今後も女子寮を作る予定で検討していますので、そのあたりを差し引いていただければ、或いは今後統計の中でも、そうした値を排除するような形での数字も、もし可能であれば見せていただくと本来の出生率が見えてくるのかと思います。</p> <p>その他ございますでしょうか。</p> <p>それでは次の議題に入りたいと思います。</p> <p>次の「時代の潮流の整理について」と「まちづくりの現状と課題(基礎的調査結果の整理)について」は関連がございますので一括で事務局からお願いいたします。</p>
事務局	《資料に基づき「時代の潮流の整理について」及び「まちづくりの現状と課題(基礎的調査の整理)について」説明》

鈴木会長	<p>ありがとうございます。これにつきまして質問ありましたらお願いいたします。 田中委員お願いいたします。</p>
田中委員	<p>まちづくりのところでの課題についてです。 先ほど申し上げたことですが、外国人政策をしっかり設けないといけないだろうと思います。人口ビジョンもありましたが、その満たない部分は外国人が必ず埋めることになると思います。 高校生の提案でもあったように、高校生は先を見ていると思いました。また市民の交流や関わり合いという記載がある中で、後ほど生きがいという言葉が出てきますが、それ以前に居場所があるまちづくりといいたいでしょうか。子どもや若者の居場所というのは出てきますが、高齢者はやはりまちの居場所を探していて、コミュニティセンターをもっと活用しなくてはいけないと思いますし、それからコミュニティカフェのように地域づくりしようとしている方もおられるので、それをもっと奨励するような働きかけをする必要があるかと思います。 それから先ほど申し上げた災害についてです。防災・防犯を考える時には欠かせないことです。私もたまたま一年間自治会長をやっておりましたが、そこでの町内会とか自治会というのは、災害が起きた時に絶対に必要になります。 それ以外のことは税金を払えば市がやってくるとありますが、防災に関しては、いざという時は自分たちで助け合うしかないと思います。消防署や警察は手が回りません。 自分たちに関わるような災害というのは何十年に1回でしょうから、その時のためにもやはり、自治会とか町内会が必要なので、その基礎としても普段から居場所づくりということを意識しながらやっていくことが必要ではないかと思います。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。 時間も迫っています。次の骨子案にも関係する内容かと思しますので、質問等については次の説明をいただいてから受け付けたいと思います。 それでは「次期最上位計画骨子案(骨子案)について」と「令和4年度のスケジュールについて」一括して、事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>《資料に基づき「次期最上位計画骨子案(構成案)について」及び「令和4年度のスケジュールについて」説明》</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。これについて質問がありましたらお願いいたします。 田中委員お願いいたします。</p>
田中委員	<p>全体的な話にはなりますが、今後を見通すと市役所の役割は財政に既定されるかと思えます。インフラ整備や市民協働も謳われていますが、NPOや市民活動と共同していくことと、民間の事業者にもまちづくりにどう関わってもらえるかということがあります。 一つ例を挙げますと、まちの居場所は結局のところファミレスや喫茶店、飲み屋さんになります。そういうところで、コミュニティボードのように市民の声を拾おうとしてくれているところがあります。こういうものが欲しいからくださいとか、頼めばすぐにポスターを貼ってもらえるとか、そういったコミュニティの飲食店や喫茶店などを活用しながら、居場所づくりを広げていくような、またはそういうことをエンカレッジしていく。市が直接コミュニティセンターを作っていくとするまちづくりも大事ではありますが、限界があると思います。民間の事業者・市民団体・NPOなどをうまく活用するような方向性と枠組みを考えていかないと難しいのではないかなと思います。</p>
鈴木会長	<p>事務局いかがでしょうか。</p>

事務局	居場所づくりについては、今後の8年間が非常に重要なものになっていくと思っています。これまでも民間と連携しながら、例えばサブラに図書館分館を設置して、そこでコミュニケーションを図れるような状態にするとか、そういった取組を行ってきておりますので、同じような施策とともに、何か新しいものを考えていければということで基本計画の中で提案していければと思っております。
鈴木会長	北川委員お願いいたします。
北川委員	今日もかなりのボリュームの内容を2時間で終わらせようという感じがします。こういった場で意見を出して、施策に盛り込むことができるのかを考えると、時間的な制約があるかと感じます。私も後で資料を読み込みたいとは思いますが、その中で、例えば次に反映するような意見があった時、メールでご連絡するというのは可能なのでしょうか。
鈴木会長	ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。
事務局	ご指摘のとおり、内容を詰め込みすぎってしまったかという点については反省しております。この中で出し切れないご意見等については、皆さんから後日メールや電話等でいただければ、今回のこの会議録に付するような形で取り上げて参考にしていければと思います。
鈴木会長	ありがとうございます。中村委員お願いいたします。
中村委員	<p>今回政策目標を掲げられていると思いますが、こちらの各プロジェクトにおけるターゲットをどこに置いているのかを示していただけるといいと考えています。</p> <p>なぜそれを伝えるかといいますと、ターゲットに対するマーケティングリサーチがどこまでされているのかを知りたいのです。私はもう龍ヶ崎市に住んでしまっているので、龍ヶ崎市に転入しようというモチベーションはありません。定住する人達を増やすということであれば、定住してきた人達に、なぜ龍ヶ崎市を選んだかというのをしっかりヒアリングして、それを拡充していこうというのが根拠にあって、これらのプロジェクトが盛り込まれているのかを考えていかないといけないと思いました。</p> <p>出ていってしまう人達はなぜ出ていくのか、これを防ぐためにプロジェクトを作るというように進めていかないと、結局誰も求めていないプロジェクトを盛り込んでしまうことになると思いますので、その部分をぜひ検討いただきたいと思っております。</p>
鈴木会長	事務局いかがでしょうか。
事務局	<p>転入の方をターゲットとしたものとしては、シティセールス課で、龍ヶ崎市とゆかりのある方などにヒアリングを行っているほか、龍ヶ崎市に引っ越してきた方にインタビューをして、その内容を市民にお伝えするといった取組を進めています。</p> <p>この政策に対するターゲットは当然必要ですが、意外とターゲットが見えてきてないようなものが多いという印象がありまして、そこは改めねばならない部分だと思います。政策には根拠が必要であるというEBPMに関するお話もさせていただきましたが、行政として根拠のない政策はやってはいけないと思っております。その辺はやはり明確に打ち出してきたかったという考えがあります。それはターゲットであるとか、持続可能性であるとか、これを4年間維持していくためにはどの程度財政負担が発生して最終的にこれぐらいの見込みがあるから続けられるとか、そういう視点を必ず政策の中に設けていながら今回の計画も作っていきたいと考えておりますので、そのあたりは優先プロジェクトの中で少し明確化していければと思います。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。谷口委員お願いいたします。

<p>谷口委員</p>	<p>骨子案とスケジュールのご説明ありがとうございました。 施策と主な取組の説明を多くいただいたかと思いますが、その中で掲げられている優先プロジェクト案が、今後具体的にどのように進められるのかお決まりでしたら教えていただければと思います。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>事務局お願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>少し説明を省略してしまったところもありますが、これは事務局案として作成しています。それぞれ所管している課でも実際にやりたいことや考えていることなどもあるでしょうから、そのあたりももう一度精査しながら、最終的な形を示していく中で、市役所が考える優先プロジェクトというのをある程度固めていきたいと思っています。</p> <p>それに加えて、先ほど言った市民や団体への意見聴取を行う予定もありますので、その中で、こういう視点で進めるべきではないかという意見が多く出るようなことがあれば、最終的には見直していくようになるかと思っています。そういった流れで優先プロジェクトは絞り込んでいきたいと思っています。</p> <p>実際のところ、財政的・人力的・期間的な問題などで、すべてのことを実現できるということにはならないかと思っていますので、先ほどの人口問題もそうですけど、それに対して、一番影響力を与えるようなものを重点的な部分ということでピックアップしてそれを掲載していきたいと考えています。</p>
<p>谷口委員</p>	<p>具体的にはどのぐらいの時期にそれが出てくる感じでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>案としては、5月の次回審議会開催の際には、もう一度まとめたものをご提示したいと考えています。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。その他いかがでしょうか。 披田委員お願いいたします。</p>
<p>披田委員</p>	<p>政策目標の8の重点プロジェクトの主な取組として、民間活用・広域行政推進が触れられています。一部事務組合を龍ヶ崎が所管するということもありますが、これも先ほど触れましたように、もう少し広がりを持たせていってもいいのではないのでしょうか。県央に比べると県南はそれぞれがばらばらにやっている印象です。</p> <p>また、田中委員からのお話の繰り返しになりますが、外国人施策について、ダイバーシティという言葉だけでなく、もう少し具体的なものも入れていただきたいと思っています。</p> <p>また武藤委員からご指摘のあった、立地適正化についても、人口が減っていく中で、龍ヶ崎市は多極分散型の都市構造を持っています。道路や車というものを捨て去ることはできませんが、公共交通機関の現実を考えると、道路などと同じように、公共交通は交流のために必要であり、そのために負担していくという視点が大事なポイントであるということを考えてほしいと思います。</p> <p>それと福祉については、表現の仕方が難しいとは思いますが、福祉という言葉を使うだけでなく、具体的な内容を感じられる書きぶりをするを考えてほしいと思います。</p> <p>また、今回の計画策定に当たっての進行スケジュールは極めてタイトであるように見えますので、実務的に進めていくことだけが目的にならないようにしてほしいと思います。</p> <p>昨年11月には一度勉強会を開催しました。時間のない中でなかなか難しいとは思いますが、4月のどこかでまた勉強会を開催していただきたいと思っています。また、今回の最上位計画の策定に当たって、分野別計画というのが関連するということですが、市としてこういった計画の関連図があれば、参考資料として提供していただくことは可能でしょうか。</p> <p>そしてもう一点、周辺自治体でも行政経営評価を行っているとのことで、龍ヶ崎市と周辺</p>

	<p>自治体の状況を比較しているようなものが資料としてあれば、それも提供いただきたいと思います。県南地区にどのような問題があって、その中で龍ヶ崎市はどうなのかが分かるものを、委員としても龍ヶ崎市全体を考えていく必要があるかと思っておりますので、ご提供をお願いしたいと思います。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>いろいろご意見いただきましてありがとうございます。 広域行政の部分については、ご意見を参考に今後進めていきたいと考えています。 ご提案がありました勉強会については、前回に引き続き2回目ということになりますが、開催スケジュールは会長と調整させていただければと思います。日程等が決まりましたら別途ご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。 分野別計画の体系図については、市の方で定期的にまとめているものもあるのですが、今回新たな政策体系案というのを示しておりますので、それに基づいた計画体系図というものを作成し、お示していきたいと思っております。 行政評価につきましては、ベンチマークについてのことと思いますが、これまで行政評価を行う、特に施策評価を行う際に近隣の他自治体とも数値の比較を行っておりまして、それについてはまとまった資料もございますので、それは改めて皆さんの方にお示しさせていただければと思います。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。 皆さんご意見あろうかと思いますが、先ほどメール等でも受け付けていくというお話もありましたので、この辺で終わらせていただきたいと思います。 何かございましたメール等でお知らせください。 これをもちまして本日の審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>令和 4年 月 日</p> <p style="margin-left: 400px;">会 長 _____</p> <p style="margin-left: 400px;">議事録署名人 _____</p> <p style="margin-left: 400px;">議事録署名人 _____</p>	